



第33回米神山巨石祭開催

令和6年3月10日（日）10時より
宇佐市長をはじめ多くの来賓者に列席いただき
第33回米神山巨石祭が開催されました
山開き祭神事【山の神の鎮魂と安全祈願】宮司さんのお祓い
二人の巫女さんによる【浦安の舞】

佐田っ子（佐田小児童）が壇上へ わかりやすいキッズガイドありがとうございました
祝賀紅白もちまき なりふり構わず 拾う姿 つい微笑んでしまいました

最後は 米神山探訪登山（標高475）

ここは 思い切って ぼくも「神の山」登山にチャレンジしました
急斜面では 足を滑らせ ロープを手繰り寄せたり 木にしがみついたり

尻もちついてる自分の姿を 笑いながら 頂上へ

下界に見える 佐田の町 なんだか達成感ありました

受付で 頂いた「おにぎり」3個美味かった

まだ登ってない人 一度挑戦しては 爽快で神になった気分

楽しい 有意義な 一日を過ごすことができました

役員・スタッフのみなさん ありがとうございました



俳句教室

令和六年二月 三九二号
佐田句会二月二十日 佐田公民館（六名）

兼題 春浅し 梅 うぐひす

松本公節 選評

○老幹の脇より一枝梅満開

二三華

○浅春の山むらさきにけぶりけり

”

（評）輝く措辞と、淡々とした句の混交で、作者の生来の詩心と丁寧な、自然観察眼で佳句となつていく。

○いかんせん治らぬ病梅の下

義彦

（評）九割がた治っているが、完治しない「いかんせん」がとも、リアルな句。

○鶯の遠く近くに啼く日かな

まさ子

（評）鶯の鳴き始めは人家近くで、「遠く近く」の通りだと思ふ。

○露の臺夕餉の会話ふくらます

美佐子

（評）「露の臺」の命は香りと色とふくらみで、素直な佳句。

○密やかに蕾ふくらむ梅の枝

彰裕

（評）まだ初期の「密やか」で、今満開の梅と少し違和感があったかもしれない。

選者吟 つくばひに長雨あふれ春浅し

次回は三月十九日佐田公民館

兼題は 初蝶 春霜 げんげ

今年もやってきます4月1日

エイプリルフール

年に一度のエイプリルフールということもあり
何か面白いネタを探している・考えている人も多いのではないのでしょうか？
そんな人にまず確認して欲しいのが 嘘についての基本的なルールです
エイプリルフールの目的である「楽しむこと/楽しませること」を忘れないためにも
これらのルールを必ず守ってください

人を傷つけたり心配させる嘘はNG

エイプリルフールはユーモアの日であり
みんなが楽しい気持ちになることがとても大切です
深刻な嘘で相手を不安にさせたり 傷つけたりしてはいけません
自分にとっては何でもないようなことも
相手にとっては大きな打撃という場合もよくあります
特に相手の見た目や人間関係に関わるような嘘は避けた方が無難です
嘘をつく前には必ず「相手を傷つける可能性はないか」をよく考えましょう

相手のものを破壊したり 身体を傷つけることも当然NGです
いたづらをするなら
ネタバラシをしたときに相手が思わず笑ってしまうような ちょっとしたものがいいですね
さて みんなで大笑い知恵を絞って楽しい嘘を考えよう
4月1日は 笑顔の日 楽しみだ！

佐田小学校卒業式

三月十九日火曜日、佐田小学校卒業式が行われました。

卒業生五名、四月からは中学校へ希望に満ちた最高の笑顔、きらきらと輝いて見えませんでした。

思い起こせば、五十五・六年前、自分も佐田小学校を卒業しました、当時は二クラスで仲間も多かった、卒業式の内容については、ほぼ覚えていないが、今日で小学校最後なんだと言う実感はあったかな。

その時代は、安心院中学校まで、自転車を通うため、小学校卒業と同時に、新しい自転車(通学用)を買ってもらったのが楽しみでした、変速付きの自転車スピード出ましたよ。

あとは、部活何にしようかな、あれもやりたいこれもやりたいと、いろんな想像をしていたな、少年時代の思い出。

卯月

四月の和名は【卯月(うづき)】と読みます。由来としては、ウツキの花である「卯の花」が咲く季節(実際の開花期は五〜六月)だから、という説が有力だそうです。もともと卯月は旧暦の四月を指す言葉でした。現在は旧暦四月≡新暦四月と考え、卯月を新暦の四月の別名として使用しているそうです。へエ〜年度の始まり【桜月】では、どうじゃろう。

佐田公民館だより QR コード
スマホからカラーで閲覧できます。

